

ふくしまレッドリスト(2019年版)見直しの理由

シリアル番号 (新旧対応表)	生物群名	分類	科名	和名	学名	ふくしまRL2018 (旧)カテゴリー	ふくしまRL2019カ テゴリー	見直しの理由
50	維管束植物	単子葉植物	ラン科	ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i> Blume ex Miq.	未掲載	絶滅危惧IA類	福島県内の1箇所で生育を確認。標本は福島大学にあるが未整理。
56	維管束植物	単子葉植物	ラン科	ミヤマモジズリ	<i>Neottianthe cucullata</i> (L.)Schltr.	未掲載	絶滅危惧IA類	これまで福島県内で報告がなかったが、千葉県立中央博物館に南会津町産の標本が収蔵されていることがわかった。
162	維管束植物	単子葉植物	ユリ科	ミヤマスカシユリ	<i>Lilium maculatum</i> thunb. Var. <i>bukosanennse</i> (Honda) H.hara	未掲載	絶滅危惧IB類	環境省レッドリストに合わせて、ヤマスカシユリ(日本海側で茎がふつつ直立)とミヤマスカシユリ(太平洋側の崖を懸垂、葉が披針形)を分けることとする。園芸用採取のおそれが強いいため、カテゴリーを1つ上げる。
173	維管束植物	単子葉植物	ラン科	タシロラン	<i>Epipogium roseum</i> (D.Don) Lindl.	未掲載	絶滅危惧IB類	2019年にいわき市で発見。個体数は少ないが南方普通種のため1ランクダウンさせる。
192	維管束植物	単子葉植物	カヤツリグサ科	オクタマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> Franch. Et Sav. Var. <i>kuzakaiensis</i> (M.Kikuchi) T.Koyama	未掲載	絶滅危惧IB類	大森(2019)が桧枝岐村から報告。福島大学貴重資料保管室植物標本室に別の1箇所の標本あり。
443	維管束植物	真正双子葉植物	タデ科	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i> (H.Lév.) Koidz.	絶滅危惧II類	絶滅危惧IB類	福島大学貴重資料保管室植物標本室にある県内産標本は1枚のみ。最近福島市内で新たな産地が発見された。標本は福島大にあるが未整理。
462	維管束植物	真正双子葉植物	オオバコ科	テングクワガタ	<i>Veronica serpyllifolia</i> L. subsp. <i>Humifusa</i> (Dicks.) Syme ex Sowerby	絶滅危惧II類	絶滅危惧IB類	尾瀬以外では近年未確認。尾瀬では外来亜種コテングクワガタと浸透交雑が進んでいる。
504	維管束植物	シダ植物	イノモトソウ科	イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i> Poir.	準絶滅危惧	削除	産地が増えている。
508	維管束植物	シダ植物	チャセンシダ科	コバノヒノキシダ	<i>Asplenium anogrammoides</i> Christ ex H.Lév.	準絶滅危惧	削除	浜通りの溪谷には珍しくない。
524	維管束植物	シダ植物	オシダ科	オオベニシダ	<i>Dryopteris hondoensis</i> Koidz.	準絶滅危惧	削除	浜通りの丘陵地に珍しくない。
599	維管束植物	真正双子葉植物	バラ科	シロバナトウウチソウ	<i>Sanguisorba albiflora</i> (Makino) Makino	未掲載	準絶滅危惧	高山にみられる。産地が少ない。
705	維管束植物	単子葉植物	ラン科	マンシュウヤマサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> Rchb.f.subsp. <i>maximowicziana</i> (Schltr.)	未掲載	情報不足	県内で少数の確認例があるが、近縁な種類との区別が不明瞭で、分類学的に検討が必要である。
739	維管束植物	真正双子葉植物	マメ科	ツガルフジ	<i>Vicia fauriei</i> Franch.	情報不足	絶滅危惧IA類	福島県内の1箇所で4個体の生育を確認。標本は福島大学にあるが未整理。
750	維管束植物	真正双子葉植物	ミソハギ科	ミズキカシグサ	<i>Rotala rosea</i> (Poir.) C.D.K.Cook	情報不足	絶滅	これまで福島県内で報告がなかったが、国立科学博物館に古い標本が収蔵されていることがわかった。
758	維管束植物	真正双子葉植物	アブラナ科	ハナハタザオ	<i>Dontostemon dentatus</i> (Bunge) Ledeb.	情報不足	絶滅	これまで福島県内で報告がなかったが、東京大学総合研究博物館に古い標本(田村市産)が収蔵されていることがわかった。

43	昆虫類	コウチュウ目	オサムシ科	ホソハンミョウ	<i>Cylindera gracilis</i> (Pallas)	未掲載	絶滅危惧Ⅱ類	これまで生息の確認がされていなかったが、40年以上前の標本が2015年になってはじめて発表され、2016年にも南相馬市で採集されたことで極めて局地的ではあるが生息することが明らかとなった。しかしながらこれ以外の採集記録がなく、生息環境となる草地的環境が悪化していることから絶滅危惧Ⅱ類に選定。
146	昆虫類	カメムシ目	アメンボ科	エサキアメンボ	<i>Limnoporus esakii</i> Miyamoto	未掲載	情報不足	県内において研究者が長年探し続けていたが、2019年9月に松川浦にて本種の生息を確認。この1カ所のほかには見つかっておらず、調査不足のため、生息条件の悪化が一部か大部分かの判断が不可能であるが生息が確認できていることから情報不足に選定。
29	鳥類	カモ目	カモ科	シジュウカラガン	<i>Branta hutchinsii</i> (Richardson,1832)	準絶滅危惧	絶滅危惧IA類	国内での生息数は年々増加の傾向。県内での生息は、近年記録が僅かではあるが継続して確認情報が増えてきている。しかしながら環境変化に敏感な種である。また経年的確認が中通りで近年あり、浜通りでも確認例がある。生息数としては農耕地の減少や自然再生エネルギー開発等の環境悪化で再び消滅する恐れがある。
30	鳥類	タカ目	タカ科	チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i> Kaup,1847	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	県内の確認情報は少ない。会津・郡山・白河・いわき・南相馬・相馬で冬季に少ないが確認されている。しかし、県内におけるヨシ原・草地の震災・災害関連や河川整備、自然再生エネルギーの開発等で生息環境は悪化している。今後飛来数の減少の懸念がある。
34	鳥類	チドリ目	シギ科	ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	数少ない旅鳥として県内で経年に渡り記録がある。国内でも飛来数は近年少ない。今後中継地の開発等による環境変化で飛来個体が消滅することも県内では大きく懸念される。
76	鳥類	チドリ目	ウミスズメ科	ウミスズメ	<i>Synthliboramphus antiquus</i> (Gmelin,1789)	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	県内では冬季に相馬から南相馬沿岸部では毎年およそ50～100羽を確認している。宮城県沿岸では更に多い。南相馬からいわきの沿岸地域でも生息している可能性は高い。越冬期には県内で推定150羽程度が沿岸沖で越冬している可能性がある。大きな飛来数の変動はここ近年の観察では見られていない。しかし県内の越冬個体数は多いとは言えない。今後環境変化により、飛来数の減少は大いに考えられる。
8	淡水魚類	コイ目	コイ科	キタノアカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tohokuensis</i> Arai,Fujikawa and Nagata	絶滅危惧IB類	絶滅危惧IA類	2000年代初期に確認していた生息地の大半で、現在確認できないか、確認が困難になっているため。減少原因が不明な点もあるが、河川工事等やマニアによる乱獲も減少の要因となっている。
14	淡水魚類	カサゴ目	カジカ科	カジカ大卵型	<i>Cottus pollux</i> Günther	絶滅危惧IB類	絶滅危惧Ⅱ類	県内全域で減少しているが、会津地方を中心に生息環境と個体数が比較的安定している場所が多いため。ただし、水害や河川工事、森林伐採による環境の変化によっては、来年度以降、ランクの変動可能性有り。

19	淡水魚類	カサゴ目	カジカ科	ウツセミカジカ (カジカ小卵型)	<i>Cottus reinii</i> Hilgendorf	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	県内では太平洋沿岸水系に生息。生息域は河川中・下流と人の生活圏と重なる場所が多い。そのため、河川工事や遡上不可となる取水堰堤の構築、生活排水の流入、上流域の森林伐採が原因のシルト堆積などにより減少している。近年では津波被災地の河川工事により、生息地が破壊されている。仔魚の生活圏である河口・沿岸域の環境変化にも注意が必要。
24	淡水魚類	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i> Temminck and Schlegel	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類	個体数が比較的多い水域もあるが、河川工事や森林伐採による川底環境の変化により、県内河川で減少している。また、近年確認されている外来ウナギ類は本種にどのような影響を与えるか、詳細が不明。津波被災地の復興工事は、震災後に本種が再確認された水域と重なる場所が多く、工事の影響が危惧される。
32	淡水魚類	コイ目	コイ科	スナゴカマツカ	<i>Pseudogobio polystictus</i> Tominaga and Kawase	未掲載	情報不足	国内のカマツカは2019年に3種あると発表され、福島を含む東日本のカマツカが本種(記載者には稲葉より福島県内のサンプルを提供・本県産は全て本種)。河川砂地に生息するが、県内各地で減少している場所が増加。今年度は情報不足とし、来年度以降の調査で再度県としてのカテゴリーを判断することとする。
37	淡水魚類	カサゴ目	カジカ科	阿武隈高地の カジカ大卵型	<i>Cottus pollux</i> Günther	未掲載	絶滅のおそれのある地域個体群	河川工事、流域の森林伐採によるシルトの堆積、生活排水の流入などにより、阿武隈高地全体の河川で減少、場所によっては絶滅している。特に高地西側に流れて阿武隈川に流入する河川では激減しており、人の生活圏である人里においては多くの河川で絶滅している。
7	菌類	タバコウロコタケ	タバコウロコタケ科	カバノアナタケ	<i>Inonotus obliquus</i> (Fr.)Aoshima	未掲載	準絶滅危惧	カンバ類に発生する北方系のきのこで、県内では昨年初採取。最近漢方への利用から乱獲が懸念されており、環境省では準絶滅危惧種に指定している。
9	菌類	スッポンタケ	アカカゴタケ科	カゴタケ	<i>Ileodictyon gracile</i> Berk .	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	この種は大正7年、西白河郡古関村(現表郷村)で採集されたのが日本初。その後県内では中・浜通りなどの数か所で採集されたが、最近の10年ほどは見つかっていない。